



学校図書館部会報 56

発行日：2017年12月10日

発行者：日本図書館協会 学校図書館部会（部会長：高橋恵美子）

連絡先：〒252-0318 神奈川県相模原市南区上鶴間本町 6-7-3-303

Tel. 042-743-1449 (Fax 共通) E-Mail : gakutobukai@jla.or.jp



INDEX

『学校司書という仕事』を出して	2
『読みたい心に火をつけろ!』出版させていただきました	3
「東京・学校図書館スタンプラリー」から本ができました!	4
最近の図書館協会の動きから	5
「図書館員のおすすめ本」 ご愛読ください! 原稿にご協力ください!!	7
部会からのお知らせ...	8

第46回 夏季研報告集ができました!

報告集の主な内容

夏季研テーマ「学校図書館員の専門性を探る」

報告集の主な内容

- (1) 報告 学校図書館をめぐる状況 堀岡秀清氏
- (2) 講演 学校図書館員に求められる専門性とは何か 岩崎れい氏
- (3) 報告1 レファレンス協同データベースと学校図書館 藤田千紘氏
- (4) 報告2 全ての道はレファレンスサービスに通ず? 坂下直子氏
- (5) 報告3 生徒の成長をサポートする図書館 今野千束氏

ご希望の方は、部会 E-Mail までお問い合わせください。

『学校司書という仕事』を出して

高橋 恵美子



皆さんからの声
本を出した直後、お世話になった方たちから本を送ることから始めた。「なによりわかりやすく、実例がたくさんで、文章が読みやすい。」「読みやすくできている」など、ありがたい言葉をいただいた。同時に、「ひとつ

文句を言うなら、索引がほしかった!」「表紙です。残念です。雑然とした書架の写真。学校司書がいて、このような状態はよくないですね。私は、手を伸ばして、整理したくなりました。」との言葉もあった。

表紙の件、本当はもっと時間があれば他の写真を使いたかったところだった。これという写真の候補はすぐに見つからず、時間切れで決めてしまった。読書メーターというサイトの感想・レビューにも、表紙にふれた文がある。「表紙の図書館の本の並び方が、書名の順になっているみたいで、すご〜く気になるんですが」、これは気がつかなかった。この感想を書かれた方は、学校司書のように、「書かれている悩みはまさに今の私のなやみであり、あまりかわっていないんだなと思いました。」ともある。

朝日新聞の取材

本を出したことで、朝日新聞の杉原記者から取材の依頼があった。このインタビューは、2017年7月10日付の「学びを語る」欄に掲載された。記者が、学校司書の役割・配置についてきちんと取りあげてくださったことを、ありがたく思っている。このインタビューでも話したが、今、学校司書の抱えている課題は学校司書の配置が「薄く広まっている」ことにある。言い換えれば、正規職員が減っていることである。

また、「ユネスコ学校図書館宣言」にふれたところ

では、学校図書館の目標に「読書の習慣と楽しみ、学習の習慣と楽しみ」を促すとあり、「楽しみ」が強調されていることを話した。「楽しみ」がコアにあることで、読書の世界が広がり、学びの世界が広がると伝えたいつもりである。読書や学習の「楽しみ」を伝えるうえで、学校図書館は大きな役割を持っている。

ウェブ上のコメントから

アマゾンで最初についたレビューは「結局は食い扶持確保」(5月31日)という辛口のコメントだった。この文を書いた方は「図書館はともかく学校の図書室に司書は不要」と考えていて、続けてご自身の学校図書館体験がつづられていた。辛口のコメントの割に星3つの評価になっているのが、不思議な感じがした。次のレビューは「気の毒な生徒」の再生産を断ち切るために(9月3日)で、前のレビューの反論になっていた。3つ目のレビューは「学校司書の実践を丁寧に調べあげた良著」(10月1日)で、「学校司書を目指そうという人、学校司書として働いている人のみならず、教科を教えている教員や、教育行政に携わる人にはオススメ、いや、必読書だと思います。」と結ばれていた。とはいえ、最初のコメントには考えさせられる。大多数の人が貧しい学校図書館しか経験していない、それを解決するのはいい本を図書室に置くことで、「その本を選ぶのは司書でなくてもできる」というのが、一般の感覚なのだろうか、と。

この本がどう読まれているかを探して、読書メーターというサイトを見つけた。感想・レビューが7つ、そのうちの3つが、学校司書に必要な資質(第6章)について書かれていた。たとえば次のような文である。「最後の学校司書に必要な資質は、目からウロコ、(略)。本の知識が5番目という。でも、納得です。やはり第一はコミュニケーション力と、この仕事四年目にして思います。」「必要な資質として6つの項目があげられているが、私はどうだろう? 6つめの「打たれ強さ」は自信ないな。」「単独での

仕事も多い学校司書に求められる資質として、まずコミュニケーション能力や好奇心、失敗を恐れなといったことなどが挙げられる点に、学校側や公共図書館などの連携が重要になってきている学校図書館のありようが集約されていると思いました。」

学校司書に必要な資質は、神奈川の学校司書の人たちとのやりとりからまとまってきた部分になる。大胆なまとめではあるけれども、共感してもらえてよかったと感じる。

横須賀市の講座で

10月6日、本を出したことがきっかけで横須賀市の学校図書館ボランティア講座で話をした。タイトルは「子どもたちに読書と学びの楽しさを伝える学校図書館づくり」である。この講座では、かつて中央農業高校で働いていたところによく図書館に来てくれた先生との思いがけない出会いがあった。当時彼女は新卒だったが、結婚して職を辞し、横須賀市で学校図書館ボランティアをしているとのことだった。彼女は、この講座で話す高橋恵美子さんは、自分が知っている高橋恵美子さんだろうか？と思いながら来たとのことだった。

講座が終わった後、参加者の一人が話にきた。自分の学校では、これからの学校図書館は学習センターなのだから、と、せっかくボランティアの方たちが子どもたちにとって居心地のいい場所となるべく工夫したことをことごとく否定されてしまったとい

う話だった。子どもの気が散るからと飾りつけをとることになったり、ぬいぐるみを捨てることになった、とのことだった。なにより、子どもの口から最近図書館が面白くなったと聞いてがっかりした、という。読むことは学びの基礎であること、読書も学習も「楽しみ」こそが重要であることが先生に理解されていない。私が話した話と真逆のことが起きていた。

最後に

今学校司書の状況は、問題ばかりであると感じている。正規職員が減ることで、図書館の立場から司書教諭、教諭に対して対等に意見が言える立場でなくなっている。民間委託や派遣なども増えている。『学校司書という仕事』で書いた学校司書の実践は、多くは正規職員の学校司書の実践である。

ひとりで本を出すということが、こんなに大変なことだとは思っていなかった。それでも本を出すことができて、本当によかったと思っている。『図書館界 Vol.69 No.3』（日本図書館研究会発行）に新刊紹介を書いてくださった中村由布さん、私の本を売ってくださった学校図書館問題研究会神奈川支部の皆さん、兵庫の飯田寿美さん、船橋佳子さん、本当にありがとうございます。

『学校司書という仕事』 高橋 恵美子著 青弓社
2017.4 1600円（税別） 9784787200624

『読みたい心に火をつけろ！』出版させていただきました

木下 通子（埼玉県立春日部女子高校図書館）



岩波ジュニア新書の編集部の方から、本を出版しませんか？と声をかけていただいたのが2015年。ジュニア新書は締め切りがあるわけではなく、書けたものから出版するという形をとっ

ているようで、企画が通ればあとは著者の執筆努力次第。ちょっと書いては筆を止めと、グズグズしている間にけっきょく本を出版するまで2年近くもかかってしまいました。途中でやめようかと思っている私を叱咤激励してくれた自由の森学園の大江輝行さん、ブックデザインも含めてイラストを担当してくれた栄東高校の青木まい子さんの協力があってこそ、完成した本だと感謝しています。

この本は5章から成っています。編集者と内容を相談し、学校図書館の様子や司書の活動がわかる内容とエピソードを盛り込みながら書きました。また、埼玉県高校図書館フェスティバルの取り組みとビブ

リオバトルについて、まるまる一章を使い、実践をまとめる形で書きました。そして、生意気にも最後の章では司書としての「読む」ことについて語らせていただきました。7月1日にはご縁があったみなさまをお招きして出版記念のトークセッションを行い、そのセッションの記録を日本図書館協会からブックレット『学校司書のいる図書館に、いま、期待すること』（2017年10月）として刊行させていただきました。出版社を超えて本を発行させていただくことができ、とても感謝しています。日本図書館協会のみなさま、本当にありがとうございました。

本を出版してから、いままでつながりのなかった大学の図書館学の先生、書店、公共図書館のみなさまからもお声かけいただき、学校図書館の活動をお話させていただくようになりました。そして、司書がいない地域の小中学校の司書教諭の先生と、つながりを持つことができるようになりました。現場にいる私たちは、学校図書館の教育力や学校司書の活動をよくわかっていますが、まだまだ、学校図書館は本がある部屋と思っている方が多く、司書としてこんな仕事をしているとご紹介するととても驚か

れます。司書にとって当たり前と思っていることを、丁寧に伝えていく必要性をヒシヒシと感じています。家庭の教育力が下がっている現在、自宅に新聞もなく、本が一冊もないという小学生が増えているようです。もし、すべての小中学校に専門職の司書が専任・正規で配置されていたら、担任の先生と協力しながら子どもに本を薦めることで、きっと子どもの生活が変わります。学校図書館に興味がある方に読んでいただくだけでなく、いまの子ども達の暮らしぶりや子どもの貧困の現状をなんとかしたいと考えている人にも、学校図書館に興味を持ってもらえたらと、あちこちに本を持って出かけています。

2月には、「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2017」が発表されます。まだまだ世間的には「学校図書館」「学校司書」に認知度は低いのです。もっともっと、頑張って、学校図書館の魅力を伝えていきたいと思います。

『読みたい心に火をつける! 学校図書館大活用術』

木下 通子著 岩波書店 (岩波ジュニア新書) 2017.6
900円 (税別) 9784005008551

「東京・学校図書館スタンプラリー」から本ができました!

杉山 和芳 (東京都立国分寺高校)



夏休みを利用して学校図書館を広く公開し、学校図書館活動への理解を深めてもらうイベント「東京・学校図書館スタンプラリー」(以下、スタンプラリーとする)は今年で6回目を迎えました。平成24年に都立高校10校、私立高校3校が協力して始めた

イベントは、年を追うごとに参加校が増え、第6回では都立24校、私立7校の合計31校で開催するまでに成長しました。公立学校と私立学校の垣根を越えたイベントは高く評価されています。

スタンプラリーでは来場者への景品として、第1

回より小中学生におすすめする本を紹介するブックガイド小冊子の作成と配布を行ってきました。第5回の開催を終えたころ、これまでの5年分のブックガイドをまとめて1冊の本にするという話が持ち上がりました。数えてみると5冊でおおよそ330冊の本を紹介していたので、その中から300冊に絞り、本にまとめることになったのです。

これまでに多くのYA向けブックガイドが出版されています。それらとどのように差別化をするかを考えた結果、学校司書・司書教諭が作るブックガイドなので、分類番号を前面に押し出した構成とすること



第6回のブックガイド

に決めました。本には分類番号が振られていて、分類番号で整理されていることは知っていても、くわしく日本十進分類番号について知る機会はありません。この本では各分類の扉に、分類についての説明を加えることで、分類番号について学ぶことができるような工夫をしています。

また、デザインにも工夫を凝らしました。それぞれの本の紹介をしおりのような縦長の形に収めたのです。一見すると読みにくそうですが、スマートフォンの縦長の画面に慣れている人にとっては、違和感なく読むことができます。このページを切ると本の紹介入りの栞にもなります。

採用図書が多いため編集には長い期間が必要でした。ようやく、ペリかん社から「なるにはBOOKS」の別巻として発売できたのは、第6回スタンプラリー開催の直前である7月でした。

出版を記念して7月中旬には都立多摩図書館でイベントを開催し、岩波ジュニア新書の山本編集長による講演会と採用図書全点展示を行いました。さらに、東京都多摩地区に店舗を構えるオリオン書房と連携し、立川駅にほど近い書店に特設コーナーを作ってください、この本とスタンプラリーの紹介を行いました。また、『出版ニュース』や月刊『生徒指導』、『学校図書館速報版』などのメディアでも書評やご紹介をいただくことができました。インターネットのサイトである読書メーターでも22レビューを書いてもらっています。また、多くの公共図書館、学校図書館で收藏していただいております。

本の出版により、夏休み期間中のスタンプラリーにも変化が起きました。この本を読んでスタンプラリーを知り、実際に足を運んでくれた参加者が何人もいたのです。これまで図書館の世界の人にしか届けることができなかったスタンプラリーの情報が、出版を機に多くの人に届いたことを知りました。本を出版することの影響の大きさと意義を実感した瞬間です。

この本は幸いにしてご好評をいただき、多くの方に読んでいただくことができました。11月には重版も出版されました。今後も多くの読者の手に渡り、それぞれの読書活動に活用してもらえることを期待しています。

今回の出版が世間に受け入れられたこともあり、すでに第2弾の作成も視野に入れた活動を始めています。第6回のスタンプラリーで作成・配布したブックガイドでは、この本に掲載している以外の本を取り上げています。新たに300冊分集まるまでには4年ほどかかりますが、その時には『学校図書館の司書が小中高生にすすめる本300 その2』を出版できることでしょう。

今後ともスタンプラリーへのご支援をよろしくお願いいたします。

『学校図書館の司書が選ぶ小中高生におすすめの本300』
東京・学校図書館スタンプラリー実行委員会 編著
ペリかん社（なるにはBOOKS別巻） 2017.
1500円（税別） 9784831514776

最近の図書館協会の動きから

○代議員選挙に向けて

選挙日程：公示—11月1日公示

立候補及び推薦の届け出—11月20日～12月11日

投票期間—2018年3月1日～3月14日

開票—3月20日

○全国図書館大会 10月12日、13日

参加数速報値（10月20日理事会資料より） 1,459名（102回大会1,339）

内訳 参加申込者数990 招待参加129 大会運営委員278 ボランティア62

第5分科会 学校図書館 テーマ：図書館資料としてのマンガ 107名

○文科省の組織再編に対する要望

生涯学習政策局から総合教育政策局への組織改編について（要望）（2017.10.19 付）

2017.10.25 協会 HP に掲載

経過

9 月 29 日理事会

配布資料で文科省の組織再編案が示された。この再編で、生涯学習政策局は総合教育政策局となり、社会教育課と青少年教育課は、地域学習推進課となる。この再編で、局の名称から生涯学習の語が消え、課の名称から社会教育の語が消えることになる。

10 月 12 日全国図書館大会

配布資料に、「平成 30 年度機構・定員要求の主要事項」「総合的な教育改革を推進するための機能強化イメージ（案）」「総合教育政策局」設置に向けてのポイント暫定版」「総合教育政策局の体制イメージ暫定版」が入り、理事長基調報告でも言及があった。

10 月 13 日理事会 ML 執行部による文科省組織再編への要望（案）が示された。

10 月 20 日常任理事会

「生涯学習政策局から総合教育政策局への組織再編について（要望）」が出され、承認された。理事長の経過説明では、10 月 4 日に文科省担当者に口頭で抗議したこと、10 月 10 日午前に面談し、その際説明資料として、図書館大会に配布した資料を受け取ったとのことである。「総合教育政策局」設置に向けてのポイント暫定版」では、ポイント 3 として「社会教育」を名称に冠したポスト（社会教育振興官）の設置をあげ、「総合教育政策局の体制イメージ暫定版」では、生涯学習推進課、地域学習推進課、共生社会学習推進課の三つの課が「社会教育を中心とした学習活動の推進」となっている。

その後の情報

文科省の組織再編に関しては、直接学校図書館と関わる内容と理解していなかったが、『学校図書館速報版』（2017.11.15）の記事により、学校図書館が総合教育政策局地域学習推進課の管轄に入ることが判明した。この再編案は 12 月に政府内で正式決定、来年秋のスタートをめざしているとのことである。

○第 4 次「子どもの読書活動の推進に関する基本計画」の策定に向けたヒアリング調査について

第 4 次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の策定に向けたヒアリング調査票

2017.11.1 協会 HP に掲載

経過

10 月 23 日理事会 ML

児童青少年委員会委員長による原案が添付され、メ切は 10 月 25 日との連絡があった。

10 月 25 日理事会 ML

学校図書館部会案提出。第 4 次「子どもの読書活動の推進に関する基本計画」は、高校生の不読率がポイントになっていることもあり、学校図書館の課題であるのに、学校図書館部会に事前に連絡はなかった。また児童青少年委員会委員長による原案は朝の読書に言及しており、これも学校図書館の課題である。なぜ児童青少年委員会委員長に原案作成を依頼したのか疑問が残る。その後、他理事からも意見があり、提出までの日程が迫られる中、調整した。

10 月 26 日文科省へ提出。（10 月 26 日理事会 ML による。文科省には猶予をもらったとのこと。）

○第 3 期教育振興基本計画への意見

「第 3 期教育振興基本計画の策定に向けたこれまでの審議経過について」への意見（2017.10.31 付）

2017.11.1 協会 HP に掲載

経過

9 月 21 日理事会 ML

メ切は 10 月 13 日、第 3 期教育振興基本計画について（審議経過報告（素案））について、との連絡があった。第 3 期教育振興基本計画について（審議経過報告（素案））は、第 2 期と比較すると①社会教育推進体制、社会教育施設の機能強化についての記述がほとんどない、②民間の資金とノウハウも活用した持続可能な社会教育施設の運営、の二点で問題がある。

9 月 29 日理事会 執行部意見案と高橋案が出て協議。

10 月 11 日理事会 ML

素案に代わり「第 3 期教育振興基本計画の策定に向けたこれまでの審議経過について」が、9 月 28 日に報

告された段階で、意見募集の締切が10月末日まで延期。修正意見を10月16日(月)までとしたうえで、20日の常任理事会で成案にする、とのことだった。

10月17日中央教育審議会教育振興基本計画部会関係団体ヒアリング 森理事長が発言

ヒアリング時の配布資料にとじられた日本図書館協会の意見(10月11日付)は、理事会MLで報告されていない文書だった。

10月20日常任理事会

ヒアリングについての報告、ヒアリング配布資料に関しては、大会前の忙しさで理事会への報告をしなかった、とのこと。10月末日提出の修正意見は25日まで、となった。ヒアリング配布資料は、中央教育審議会教育振興基本計画部会関係団体ヒアリングの配布資料としてウェブ上にも掲載されており、対外的には図書館協会の意見と受け取れるため、第3期教育振興基本計画への協会意見は二通りあることになった。

10月25日理事会ML 理事よりの修正意見提出。

10月31日文科省へ提出。(11月1日理事会MLによる)

○その他

TRC 所属の個人会員、大量に入会

8月25日常任理事会時の個人会員数3210

9月29日理事会 9月1日時点での個人会員数3305

10月20日常任理事会 個人会員数3321

新入会員の所属TRCとなっている人が51、TRCが指定管理者となっている図書館名を所属とした人が約30。

「図書館員のおすすめ本」(図書館雑誌に毎号掲載) ご愛読ください！ 原稿にご協力ください！！

「図書館雑誌」に毎月掲載されている「図書館員のおすすめ本」にお目通しいただいたことがあるでしょうか？ 「公立図書館等(学校図書館も含まれる)における選書等の参考に資する図書の書評による紹介」を目的に、2016年10月号からの試行を経て、2017年6月号より毎月4本の書評を「図書館員のおすすめ本」として掲載しています。その内1本は全国各地の学校図書館員が執筆くださっています。

「図書館員のおすすめ本」の趣旨や過去の掲載一覧は、日本図書館協会HPの「図書紹介事業委員会」のページ(<http://www.jla.or.jp/tabid/696/Default.aspx>)をご覧くださいと思いますが、まずは「図書館員のおすすめ本」のことを知っていただき、毎号ご愛読いただければ大変嬉しいです。選書をはじめ日々の様々な取り組みに対して、ちょっぴり役立つはずですよ。

加えて皆さんにぜひお願いしたいことが原稿執筆への協力です。現在学校図書館部会幹事より笠川昭治さんと仲の二名が、図書紹介事業委員として原稿の執筆依頼にあたっています。もし執筆のお願いがまいましたら、「はい」と一言お返事頂戴できますと望外の喜びです。学校図書館では図書館だよりや教職員の推薦図書冊子など、日常的に図書の紹介文を書く機会が多いのではないのでしょうか。気を張らず、常に紹介文を書かれるような感じで執筆くだされば充分だと思います。

書評原稿の公募も行っています(<http://www.jla.or.jp/committees//tabid/696/Default.aspx?itemid=3443>)。積極的に原稿をお寄せくださるのも大歓迎です。また「この方の紹介される本はいつも興味深く面白い」など、執筆者をご推薦くださるのも大変有り難いです。原則は会員ですが、日図協に入会されていない方でも結構です。

「図書館雑誌」に図書館員による書評ページがあること自体はよいことだと考えております。図書紹介事業委員会としても、皆さんのお役に立つ情報が提供できるよう努力していきたいと思っております。皆さんにもぜひ様々な形で「図書館員のおすすめ本」にご協力いただけたらと願います。

京都府立洛北高等学校 仲 明彦 (学校図書館部会幹事、図書紹介事業委員)

部 会 か ら の お 知 ら せ

NEW

◎ 今年度の夏季研究集会記録集ができました

参加された方と記録集を事前に申し込まれた方には、年内か、年明け早々にお届けの予定です。記録集通販ご希望の方は、部会連絡先までご連絡下さい。1部1000円(送料込)で頒布予定です。

◎ 学図部会メーリングリストへのご参加のお誘い

学校図書館部会では部会運営を部会員の皆様に開かれたものとし、また、皆様からの意見を部会運営に生かすために、メーリングリストを開設しております。部会員であればどなたでもご参加頂けます。参加ご希望の方は、本紙巻頭の部会連絡先または部会アドレス(gakutobukai@jla.or.jp)宛にご連絡下さい。参加にあたっては、(1)氏名(本名)(2)日本図書館協会の会員番号(図書館雑誌の宛名ラベルに記載されています)(3)所属(ない方は不要)(4)メールアドレスをお知らせ下さい。

※メーリングリストへの参加は部会員に限らせていただいております。協会を退会された方や部会を移動された方など、部会員でなくなった場合には、ご連絡下さい。部会員でないことが確認された場合、配信を終了させていただきます。

◎ 異動・変更等について

人事異動、転居、改姓等された方は協会事務局へご一報下さい。ただし、メーリングリストに登録したメールアドレスの変更は、部会代表アドレス宛にお知らせ下さい。メーリングリスト参加者が協会を退会や所属部会を変更された場合、協会事務局に加えて、部会にもお知らせ下さい。

◎ 各地の情報・各地の実践をお寄せ下さい

部会報に載せたい実践の情報や学校司書の配置情報、各種研究会の参加記など、皆様からの情報をお寄せ下さい。その際は部会連絡先または各幹事までご連絡下さい。ご相談もお受けいたします。

◎ 研究会・集会・イベント等の開催情報を掲載し載します

各団体等が開催する図書館関係の研究会・集会等の開催情報を掲載いたします。開催日時やテーマ等要点をまとめて掲載いたします。掲載ご希望等お問い合わせは、部会連絡先にご連絡下さい。なお、次号の発行は2018年3～4月頃を予定しています。

◎ ホームページをご覧ください

学校図書館部会ではホームページを開設しています。日本図書館協会のトップページから開くことができます。最近の部会報や幹事会の記録などはここに掲載しています。新しく「アメリカ図書館協会(ALA)で紹介されている日本のマンガ」が加わりました。どうぞご参照下さい。

→ <http://www.jla.or.jp/school/index.html>

◎ 幹事会はどなたでもご参加いただけます/皆様からのご意見・ご提案をお待ちしています

学校図書館部会は役員が幹事会を開いて様々なことを話し合い、運営しています。幹事会には、学校図書館部会員であればどなたでもご参加頂けます。開催日時・場所等は部会連絡先にお問い合わせ下さい。また、遠方の会員の方など、会議への直接の参加が難しい方は、ご意見・ご要望などをお寄せ下さい。部会報への投稿もお待ちしています。役員一同、部会員の意見を反映した部会運営に努めたいと思っています。よろしくお願いいたします。